

今月の論語

利に放りて行えば

怨多し

自分の利益になることばかり考へて行くと、多くの人たちから恨まれる。

今月の帰宅放送は、東原摩舎中央校9年の加茂彩佳さんです



多久市郷土資料館長 藤井伸幸

○菩薩は本来悟りを開く前の修行中の者を称します。
○白毫は白い毛で光明を放ちます。
○宝珠は願いをかなえる不思議な玉です。
○銘には、享保十一(1726)年旧暦十一月二十四日に当山中興の僧侶至遠長が記すと刻まれています。

地蔵菩薩立像
丸彫りの像で、敷茄子状の台座の上に立っています。頭部は丸く、額に白毫があります。右手は錫杖を握る形で、左手は宝珠を包むように持っています。胸の下に裾の帯が見え、袈裟(僧祇支)の下方に左右対称の衣文が刻まれています。地蔵菩薩は、六道「地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天(上)」の世界に迷い悩む衆生を救済するとされます。
銘「享保十一年丙午仲冬廿四日」「當山中興必勤至遠長記」他

野の仏ギャラリー 32

北多久町宝林寺

連載



「多久から発信!」

SDGs ②

「多久学」論語教育」の
実践を通して

市内三校の義務教育学校では、総合的な学習の時間や社会科の学習を中心に「多久学」を実践しています。この「多久学」とは、多久にまつわる人・もの・ことを題材に、ふるさと多久を愛し、怒の心を育む教育を推進するものです。地域のみなさんには、さまざまなご支援・ご協力をいただき、本当に感謝しております。

同時に「論語教育」の実践にも力をいれています。『多久の雀は論語を囀る』と言われるほどで、志田林三郎博士をはじめとする、多久の偉人にも大きな影響を与えました。学校では論語カルタに夢中で取り組む子どもたちの姿も見られます。各ご家庭でもぜひ挑戦してみてください。

また、東原摩舎西溪校では、道徳教育の充実に向けた取組を長年続けており、近年ではこの道徳教育にも論語の教えや多久学を関連付け、指導を行っています。

多久学や論語教育で培った力を、先人たちのようにさまざまな場面で発揮して、希望ある将来を創ってほしいと強く願っています。



市民文芸

形には出来ないものもあるけれど
せめて言葉にさせて下さい

介護する あい間あい間に短歌を詠み
絵手紙書いて 趣味を楽しむ

透く空に 尋常ならず 棕鳥の
群れては柿の木の実を襲う

若き日に 姫様気分 琴弾きし
純な心の われなつかしむ

わが米寿 祝うと集いし 子らと居れば
縦横に広がる 月日の絆

柚子を挽く するとき棘を 交しつ
立冬の 空へ字を書く 大きな手

雲影の 湖面を 過ぐる 夕しぐれ
山里の 日暮るる 頃の 冬紅葉

曲家の 襖の 軋み 冬ざるる
曲家の 襖の 軋み 冬ざるる

さあ行くぞ 今年こそはと 初日の出
様変わり 餅もおせちも バック詰め

初笑い マスクで見えず 目が笑う
大根の 肌にあこがれ 煮込んで

人生を 気ままに 生きた 寂聴さん
人生を 気ままに 生きた 寂聴さん

川柳 《多久川柳会 互選》

俳句 《大石ひろ女選》

短歌 《麦の芽短歌会 互選》